

「体力向上プラン2007」推進計画

スポーツ課

(1) 目的

県下児童生徒の体力・運動能力は、わずかではあるが年々低下の傾向を示している。また、学習指導要領総則3には、学校教育全体で体力向上について取り組むように示されている。

そこで、県下の小・中・高等学校が自校の児童生徒の体力・運動能力の実態を把握し、今後の具体的な体育指導に生かすための目安としたり、実践・評価へと結びつける基礎資料としたりするために、体力向上プランを作成し体力づくりに取り組む。

さらに、本年度は、昨年度(または過去の)の取り組みの成果と課題の上に立って、より各学校の児童生徒の実態に沿ったプランを作成し継続的な取り組みを進めていく。

(2) 対象校

県下の小・中・公立高等学校全校

(3) 実施内容

各学校が、昨年度(または過去の)の実践の成果と課題を基に、全教職員の共通理解を得て

「体力向上プラン2007」推進計画書を作成する。

昨年度までの取り組みの評価を記す。

またどのような課題、実施する上での困難点等があるかも記す。

特色ある「体力向上プラン2007」については、スポーツ情報ネットワークを通じ、県下に紹介していく。

「体力向上プラン2007」推進計画書に基づいて実践し、その結果について評価する。

評価については、次年度の計画に反映されるよう、次年度計画書の中に位置づける。

教育事務所管内の同一校種ごとに各学校の「体力向上プラン2007」を複写製本し、情報交換のために各学校に配布する。

(4) 推進計画書の概要

(A4用紙1枚)

「体力向上プラン2007」

学 校 名
校 長 名
記 載 責 任 者

1 昨年度の取り組みの概要と評価

(1) 取り組みの概要

(例) ・生徒会の体育委員会が、運動の実施状況を高めるために、スポーツ大会を昼休みに体育館で週に1度行った。

・校庭にボール投げ用のストラックアウトを特設し、昼休みや放課後に開放した。

・体育授業の準備運動に体づくりにつながる運動プログラムを行う時間を設けた。

(2) 評価(具体的な数値やデータを指標として)

(例) ・昼休みの体育館使用率が全校生徒の割合において、一昨年平均12%から20%になった。

・ボール投げの数値が一昨年の新体力テスト結果よりも平均2m向上した。

・新体力テストで総合評価C段階以上の割合が70%から75%になった。

2 今年度の取り組み

(1) 具体目標(数値やデータを指標として)

(例) ・昼休みの体育館使用率を20%から30%に増やす。

・ボール投げの平均を昨年度より1m高める。

・新体力テストの総合評価でC段階以上の割合を80%に向上させる。

(2) 内容と方法

3 評価計画(実施後の評価方法)